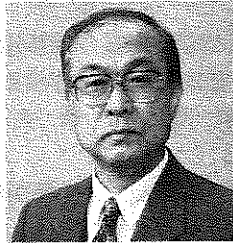


栃木県中学校長会報



新教育課程の めざすもの

栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立旭中学校長
鈴木基司

恒例になった多気山に初詣をし、生徒たちの学業成就、合格祈願と共に大厄の厄除け祈禱を済ませ、平穩の中、屠蘇で祝うことのできた元日の喜びをかみしめつつ、平成5年のスタートをきることができました。

昨年は、壬申の年だっただけに世界の情勢は日々変化し、わが国の経済の低迷、政治不信の続く中、業者テストの問題など教育界にも激しい風が吹き込んだ1年間でした。

今年酉年。鶏は世界中どの国でも予言の動物とされ、「先見の明」があり、他より一歩進んだ考え方と将来に対する見通しをもった動物ということ。

この年にあたり、校長の使命に徹し研鑽を深めると共にリーダーシップを発揮して、中学校教育の振興と保護者をはじめ地域さらに県民の信託に応える教育を推進しなければならないと考えております。

さて、いよいよ新教育課程完全実施の年を迎えます。すでにその課題が明確にされ、新学力観に立った指導が歩みだしたところですが、最重点となる「基礎的・基本的内容の指導の徹底と個性を生かす教育の充実」のために、「選択履修幅の拡大」と「個に応じた指導」を推進し、意欲・思考力・判断力・実践を生徒一人一人のものとしなければなりません。このためには入試制度の改善も必要であり、進路指導の在り方についても急を要する研究課題だと考えます。

アフリカのソマリアが飢餓で死ぬ者や難民が続出したのも教育力の貧困さ、さらに輪をかけた自治能力の喪失にあるといわれます。

「教育百年の計」新教育課程完全実施の年に当り、「心豊かでたくましい日本人の育成」をめざした学校づくりに努力したいと考えています。

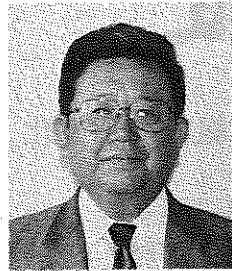


組織の活性化

栃木県中学校長会副会長
野木町立野木第二中学校長
益子純夫

今日、各学校の職員組織で苦慮しているのは中堅教師の不足である。いわゆる四十代の教師が少ない。組織で動く職場である以上良きリーダーの養成と若き教師のやる気の喚気が私たちに課せられた課題と受けとめる。メキシコオリンピックで日本サッカーは初の銅メダルの栄冠を得た。時の監督は回顧している。「試合前の打合せで、一般的には「相手は強い、とにかく頑張ろう」とハッパをかけるのが普通である。しかし、選手にしてみれば、何を、どう頑張ればよいのかさっぱりわからない、試合をする以上どの選手も頑張ろうという気持は持っている。今さら「頑張れ」と言う必要はない。選手が一番欲しているのは、この試合で、俺はどういう役割をすればよいのか、具体的な指示である。だから私たちは、釜本には相手の四番、五番の特徴を説明しておいて「今日は、お前のマークする四番、五番が上ってもチャンスを持ってハーフラインに残れ、後からロングパスの来るのを待ってシュートまで持って行け。」と指示をする。また、小城には「相手の七番は、フォワードの導火線のような男だ。彼がしめつたら、むこうは先ずさまになった攻撃はできないだろう。だから、今日の小城の仕事は七番をつぶすことだ。」

このように、他の持場まで理解し自分に与えられた役割を全力を尽して果すことが勝利に結びつくと知っている。組織で動くサッカーチームと私たちの職場はまことに似ている。教師を育てるにも、教育目標の達成のためにも、指導し、やらされる感覚でなく、自からやる意欲を持たせたい。それには信頼と友情を基盤とし「一人がみんなのために、みんなが一人のために」を確認し合うことと思う。



教職員の研修活動から

栃木県中学校長会副会長
南那須町立荒川中学校長
久郷 祐廣

新春を寿ぐとともに先の栃木大会が皆様のご尽力により成功を収めました事に敬意と感謝を申し上げます。

さて、大会でも教員の資質の向上と校長のかかわりが提案されたが次のように考えることができると思う。

即ち、教員は教育専門職であり、その専門性は教員としての人間性と職業性の二つから成り立ちこの専門性を発揮するには人としての道徳的、倫理的に生きる人間性と職業人としての行為の準則に生きる公的倫理性があって初めて信頼される教師として発揮されるものと言われる。教特法19条は教員の研修が職務であるという根拠である。21世紀に生きる人間の教育に当たる教師は将来を展望した教育的識見と国際的視野を持つことが大切でマンネリ化した日常の指導では父母や児童生徒の信頼を失い問題に対応することができないであろう。これからの教師像として、どのような教師が期待されているか、それが現職教育のめざすところである。それには専門職としての力量を持ち人間性豊かで自己研修に努める教師であって欲しいのである。理想の教師をめざし、現に教職にある者が教育に関する新しい知識や技術を学ぶことが現職教育である。特に教育の量的拡大から質的充実重点が置かれるようになり教師の資質が見直されてきている現在、その意味でも、今後現職教育としての研修が重要視されてくるであろう。教員の資質の向上を図るため、校長は学校の実態を見極め、指導力を発揮し現職教育としての校内研修を更に深める必要性を感じた次第である。また経営者である校長にも現職教育は要求される。それは職務上の管理や学校運営の能力を高めることにもなり校長も経営研修に努力を要することが大切ではないか、と今回の栃木大会の分科会から学び得た次第である。

第43回全日本中学校長会研究協議会沖縄大会に参加して

栃木県中学校長会事務局長
宇都宮市立陽南中学校長
横嶋 孝夫

沖縄大会は、平成4年10月20日(火)、21日(水)の両日にわたり、青い空とエメラルドに輝く海、ハイビスカスやブーゲンビリアの咲く南の島の宜野湾市を中心に盛大に開催された。本県からも43名の中学校長が参加し、熱心に研修をした。

本大会の主題は「心豊かでたくましい日本人を育てる中学校教育」で、全体協議会全日中提案では、中学校教育の活性化のための重要な課題として「個性を生かす教育」の充実をあげ、これに関する当面の課題である、選択履修の幅の拡大、評価、学校週5日制の3点についてその対応を発表した。地区提案では、中学校活性化の実践活動として、愛と奉仕の清掃活動、基本的生活習慣の確立、ふれあい地域学習の研究発表がなされた。

文部省説明では、栗山雅秀中学校課長補佐から、登校拒否生徒の進級・卒業認定・学校外施設新学力観と高校入学者選抜の改善、個人の教育情報開示請求等の今日的課題の説明があった。

記念講演では、沖縄文化協会会長、法政大学教授外間守善先生の「沖縄の歴史と文化」と題する興味深いお話を拝聴した。沖縄が地理的に遠く、本土と趣の異なる歴史と文化を持っていること、先生自身戦争体験者で、何百もの弾丸の破片を体中に持っていること、沖縄の人達は、戦争の皮膚体験から感じ取った戦争の惨めさ、平和の大切さ平和希求願望を持っていることを知った。

今年は沖縄復帰20周年に当たる年、そして教育課程全面実施直前に当たる年、戦後の教育を振り返り、21世紀の教育を展望するのにふさわしい、立派な大会であった。沖縄県中学校長会に感謝したい。



研究学校発表概要

「生徒一人一人が自己の存在感を味わい、生き生きと活動できる学校経営」

— 特別活動(学級活動)を中心に —
栗野町立栗野中学校長
小林 昭 吏

本校は、平成3、4年度の2か年間にわたり、栃木県及び栗野町教育委員会の指定を受け、上記の研究主題に基づいて研究を推進してまいりました。

平成4年11月19日には、県内から多数の先生方を迎え、研究成果を公開する機会が得られましたことに對し、紙面を借りまして御礼申し上げます。

I 研究推進の基本的な考え方

生徒一人一人が学校に自分の「居がい」を見だし、生き生きと活動できる学校経営を展開するためには、「自主的、実践的な態度の育成」をねらう特別活動の充実、とりわけ生徒の学校における様々な活動をより円滑に、より意欲的なものにしていくという重要な役割を担っている学級活動の充実を図ることが大切と考える。

そこで、学級活動で自発的、自治的な活動の場を多く設定し、自主的、実践的な態度の育成を図ることを研究の中心とした。さらに、他の特別活動の内容でも、学級活動との関連を図りながら、自発的、自治的な活動を可能な限り促していけば特別活動の四つの内容がそれぞれ相乗効果をもたらす特別活動全体が充実して、一人一人が生き生きとした学校生活を送れるものと考えた。

なお、研究主題の特に「存在感を味わい、生き生きと活動できる生徒」の具体像を、生徒の実態や保護者の願い、社会の今日的要請等を考慮して「めざす生徒像」として次のように設定した。

めざす生徒像
※目標をもって、意欲的に取り組める生徒
※自分の考えを進んで発表し、活動できる生徒
※互いに認め合い、励まし合える生徒

II 研究の実践

1 学級活動の指導法

- (1) 事前の活動における援助指導
企画委員会、学級全体への援助指導
 - (2) 本時の活動における援助指導
活動の開始……活動意欲の高揚、課題の把握と意識化など
活動の展開……発言や発表の仕方、司会の進め方など
活動のまとめ…実践化への意欲付けなど
 - (3) 事後の活動における援助指導
個別指導や教育相談、意識の継続化など
- 2 学級活動の年間指導計画
- (1) 学校として作成する指導計画
題材の精選、観点(自主・受容・存在感)の位置付け、関連題材の明記
 - (2) 学級として作成する指導計画
事前の活動における援助指導の明記
 - (3) 生徒の作成する活動計画
学級委員と各生活班長によって作成される学期ごとの計画
- 3 学級活動との関連を図った他の特別活動
- (1) 生徒会組織の見直し
各学級の生活班を単位とした委員会活動特別委員会の設置
 - (2) 生徒主体の多様なクラブ設置
 - (3) 実行委員会の企画、運営による学校行事
- 4 「ふれあいタイム」の活動
励まし合い、助け合う人間関係づくりを目指して
- (1) 「いきいき運動」
毎週水曜日、20分間の活動で、主体的な体力づくりと縦割り集団による望ましい人間関係づくりに努める。
 - (2) 「いきいき活動」
月に1回、実行委員による企画、運営で自発的、自治的な実践活動をすすめる。
- 以上、本校のささやかな研究実践の一部を紹介いたしました。今後も望ましい人間関係を基盤にすえ、生徒一人一人がよりいっそう生き生きと活動できる学校経営を目指して、実践研究をさらに深めていきたいと思っております。

自分と友だちを大切に、互いに 向上しようとする生徒の育成

主として道徳、学級活動、社会科を通して

喜連川町立喜連川中学校長
石井三雄

1 主題について

本町は足利家ゆかりの城下町として発展してきたもので、現在でも地域住民は誇りが高く結束も固い。また、学校に対する協力体制もしっかりしている。しかし、新しく転入した住民の一部には「排他的で住みづらい」という印象も与えているようだ。

調査の結果では、部落差別の存在を知っている保護者は80%を超えるが、その起源について正しく理解している保護者は50%に満たない。また、同和教育については、消極的な意見がかなり多い。

本校の生徒は明るく純朴で、素直。与えられたものについてはよく果たし、協力的であるが過保護な育て方をされている者が多く自主性や自立性に欠け、他を思い遣る心が足りなく、弱い仲間を嘲笑したり、真面目に行動する友を蔑んだりする者が見られる。

本校の教育目標は、「知・徳・体の調和がとれ創造性に富み人間性豊かにして、21世紀を拓く日本人を育成する」であり、「進んで学習する・礼儀正しくおもいやりのある・健康でよく働く」の生徒像を目指している。特に、同和教育の関連から「礼儀正しく――」の育成に取り組むことが必要である。

以上のようなことから本主題を設定した。

2 研究の方向と進め方

(1) 研究を進める基本姿勢とめざす教師像

同和教育は人間尊重の精神を基盤に行われなければならない。そのためには、生徒の
人権意識の高揚が不可欠であり、生徒を変容させるためには、まず、教師が変わらなければ、の考えから、

- ・生徒が主役の（生徒の人権を尊重する）教育の推進を基本姿勢とし、
- ・一人一人の良さを認め、生徒の立場に立って悩みや学習のつまづきに手をさしのべる教師をめざす教師像として、指導及び研究にあたることにした。

(2) 研究の基本方針

- ア 道徳・学級活動・社会科を通して人権尊重の精神を養う。
- イ 教師自身が生徒を大切にする姿勢を示す。
- ウ 生徒の自治活動を尊重する。

3 研究の実際

(1) 学年・学級経営及び特別活動

- ア 「育てたい能力・態度を身に付けさせる場」の一覧表作成
- イ 「個への対応表」の作成
- ウ 生徒会活動の活性化

(2) 道徳研究部会

- ア 同和教育に関する内容項目の洗いだし
- イ 同和教育を考慮した授業展開の工夫

(3) 学級活動研究部会

- ア 年間計画の見直し
- イ 指導方法、援助指導の研究
- ウ 偏見や差別の解消を目指した授業の研究

(4) 社会科研究部会

- ア 明るい展望の持てる指導の工夫と教材の開発
- イ 学習指導（グループ学習）の工夫

(5) 啓発調査部会

- ア 生徒の実態、保護者の実態調査及びその分析
- イ 啓発紙の発行、講演会等による啓発活動の実施

4 研究の成果、今後の課題

このことについては、紙面の関係で割愛させて頂きたい。



めあてをもち、互いに 磨き合う武道指導

― 剣道指導を中心に ―

都賀町立都賀中学校長
山本幸正

本校は平成2・3・4年度の3年間、文部省より武道指導推進校の指定を受け、武道の持つ、相手を尊重し、礼儀作法を重んずるという特性を生かし、また、技能の習得を通して自己を磨くという武道の基本精神に基づいて研究実践を推進し、武道指導の充実を図ることにした。

1 研究主題設定について

主題設定に当たっては、教育目標の具現化、生徒の実態、新学習指導要領の3点から考えた。まず、教育目標の具現化からは特に剣道指導を通して礼儀作法や相手を尊重する態度を身に付けるとともに、めあてをもって技を磨き合い、自ら問題解決に向けて努力するなどの能力を育成することにより、本校教育目標である「自ら学ぶ生徒」の育成を目指したいと考えた。第2に、生徒の実態からは「自ら進んで物事に取り組む姿勢や粘り強さにやや欠ける」「節度ある行動がとれない」等がみられるため、剣道指導を中心に全教育活動を通して自己を練磨し切磋琢磨して、一人一人が目標をもって学習や生活に取り組めるようにする必要があると考えた。第3に、新学習指導要領からは本校として武道の特性を十分に踏まえ、磨き合う学習を通して単に勝敗の結果だけを目指すのではなく、人間として望ましい自己の形成を重視するという武道の伝統的な考え方、行動の仕方を尊重する態度の育成を中心に研究を進めることとした。

2 研究の方針（構想）

新学習指導要領の精神を踏まえ、研究主題の趣旨を教育課程の全領域でとらえ、全校体制の中で取り組み、日常生活に生かせるように研究実践を図ることとした。また、研究組織については教科体育の指導を推進の中核とし、杖術体操クラブ・部活動の実践部会とそれを支える日常生活指導部会を設け、教師と生徒が一体となって研究実践に取り組んだ。

3 研究の実践

(1) 教科体育

生徒が自己の目標をもち、それに向かって互いに教え合い、励まし合い、確め合いながら研究主題に迫ろうとした。そのために生徒が学び合っていく学習過程と学習活動を円滑にするための要因を探究し、検証を重ねながら互いに磨き合える学習過程を明らかにする研究実践に取り組んだ。また、女子の剣道指導はその特性を生かした指導法を中心に技能の定着と楽しい剣道の指導に力点をおいて実践した。

(2) 杖術体操

昭和55年の栃の葉国体以来、伝承されてきた杖術体操は本校の特色であり、これを機会に伝承方法を工夫・改善し、武術から発生した杖術の原点を見直し、気迫に満ちた杖術体操に近づけるよう指導してきた。

(3) クラブ・部活動

技能を高め、武道への興味・関心を高め、その発展として授業における磨き合い学習のリーダーとして活動の場が広げられるよう努力した。

(4) 日常生活指導

「あいさつ・節度・奉仕」の三つの柱を目標に掲げ、学習指導、特別活動、生徒指導等の実践活動を通して成果を図ってきた。

4 研究の成果と今後の課題

本研究は教育目標の具現化を図り、武道(剣道)指導を中心に全教育活動を通して切磋琢磨しながら一人一人の生徒が目標をもって主体的に取り組めるようにすることであった。その成果として、教科体育では技能の向上を目指して意欲的に取り組み、3年男子では一人一人が得意技を習得したり、女子においては基本技能の打ち方が身に付き剣道に興味、関心が高まり、次年度もやりたい生徒が多かった。杖術体操では生徒のか 声を中心とした伝承方法に工夫がみられ、日常生活指導においては明るいあいさつができるようになってきたことがあげられる。また、研究発表当日の雨の中での杖術体操では生徒一人一人の気迫あふれる演技に参会者の大きな拍手と感銘をいただくことができた。しかしながら、研究主題の迫り方はまだ十分とは言えない面があり、今後も引き続き研究実践を重ねていきたいと考えている。

心身障害児に対する 理解、認識を深める交流教育

宇都宮市立晃陽中学校長
石澤 留五

平成3・4年度の2か年にわたり、文部省及び宇都宮市教育委員会より、心身障害児理解推進校の指定を受け「心のふれあいを求め、ともに励まし合っていく、思いやりのある生徒の育成」-富屋養護学校との交流を通して-を研究主題に掲げ研究を進めてきた。あわせて、本年度は県教育委員会より、いきいき教育活動実践モデル推進校の指定を受け、特色ある教育活動の推進を図ってきた。心の教育が求められているいま、本研究は生徒の心の育成には誠に有意義であった。

以下は研究の概要である。

本研究では、本校教育目標の一つである「思いやりの心をもつ生徒」を受け、心身障害児理解推進のために、四つの具体目標を設定した。①人の心の痛みや悩みがわかり、思いやる心の育成、②人の立場を理解し、助け合える態度の育成、③ともに学び、励まし合える態度の育成、④困難なことにもくじけず、最後まで頑張り抜く態度の育成

また、この具体目標に迫るための研究方針は、① 道徳・学級活動の時間の指導を通して、心身障害児に対する正しい理解と認識を深め、人間尊重の精神に基づく思いやりや、助け合いの心情を培い、本校教育目標の具現化を図る。② 交流活動の機会を数多く取り入れ、生徒の直接及び間接体験を重視する。③ 生徒の主体的なふれあいとともに、教職員を含めた温かな学園環境と人間関係の醸成を図りつつ、交流を通して他人を思いやる態度を育てる一方、自己の生活に取り組む態度を見つめさせ、立派な社会人を目指す意欲を持たせるよう働きかける。④、⑤省略

研究の仮説 ① 道徳や学級活動の時間の指導において、心身障害児に対する理解と認識を深める意図的、計画的、継続的な指導を進めれば、相手の気持ちや立場を理解し、他人を思いやり、ともに伸びようとする心が培われ、心豊かな生徒が育つであろう。 ② 学級活動・生徒会活動・学

校行事・クラブ活動などの実践的な交流活動を通して、富養生とともに学びあい、喜びあい、はげましあいながら、心身障害児との直接のかかわりの中で、それぞれ共通点に着目し、仲間意識をばぐくめば、思いやりのある生徒が育つであろう。

研究の実際の特徴としては、直接交流を前面に打ち出し実践してきたことである。体育祭、文化祭等の学校行事の中での交流、年間を通じて行ってきた学校農園作業における交流などで、11月5日の研究発表の際の活動もその一コマである。



こうした取り組みを通して、生徒たちには「富養生も私たちと同じ仲間なんだ」という意識が芽生え、同時に障害を克服し、毎日を真剣に生きている姿にふれ、自分の生活・学習について振り返る態度が出てきた。また、直接交流の際、初めのうちは不安や戸惑いを感じていた生徒たちも回を重ねるごとにそれも解消し、手を取り合い、肩を抱き合い活動する姿、楽しむ姿が見られるようになってきた。このような生徒の変容から、相手を思いやる心、自分自身を見直す気持、励まし合う態度が身につけてきたものと受けとめ、漸次研究推進の成果が現われてきたことに、意を強くしているところである。

今後も、この2年間の研究実践を生かし、全ての生徒に、心身障害児に対する理解、認識が深まるよう、特色ある教育活動の推進に努力していきたい。(※ 研究紀要 残部少々有り)

地区だより

よく働き よく学んだ校長会

宇都宮地区

本年度の校長会の活動は、前半はよく働き、後半はよく学んだ年であった。

前半は、関東甲信越地区中学校長会の第36回総会及び第44回研究協議会栃木大会を目前にして、福富徳治会長から『宇都宮の校長会が中核となり会員一人一人が的確に判断し、係と協力しながら率先して行動しなければならない』という指揮の下で精力的に活動してきた。もちろん、河内地区校長会8名の会員も一緒に汗を流してくれたことは言うまでもない。

大会当日まで、会員が一丸となって活動することができたのは、各学校とも教頭以下全職員が校務運営に尽力してくれたお陰であったことも申し添えたい。

後半は、宇河地区中・高校長連絡協議会(年2回)で、(1)新しい学力観が、高校入試等に今後どのような形で評価されるのか。(2)普通高校の学区制の見直しをどう検討していったらよいか等について研究協議をした。

また、宇河地区中学校長会研修会(年4回)で(1)学校週5日制にかかわる各学校の取り組み(2)業者テストに関する課題への取り組み等について共通理解を図るなど意欲的な研修活動を進めてきた。

文化財巡り(年1回)では、市教委文化課文化財保護係長定岡明義氏と指導主事神野安伸氏を講師に招いて、高田山専修寺(二宮町)、瑞龍山(水戸徳川家墓所)(常盤太田市)を訪れ、歴史や文化的背景等について見聞を広め、資質の向上に努めた。

本年度最後の研修会(2月)では、(1)新学習指導要領に則した教育課程の編成と実践上の課題、(2)新しい教育観・学力観に立った教育活動、(3)次年度の研究テーマ等について協議し、取り組んでいく予定である。

いきいきとした活力にみちた 教育活動の推進

上都賀地区

今年度の人事異動で、32中学校長のうち7名の新会員を迎え、新たな研究主題のもとに研究を進めている。学校週5日制、新教育課程の実施など重要な問題を抱え、今年度の研究主題は「いきいきとした活力にみちた教育活動の推進」である。

本地区では、大規模校から小規模校まであり、小中併設校も7校を数え、へき地校も多く様々ならば、商工業地、新興住宅地、観光地、農山村と環境も様々である。そこで、それぞれの学校の実態を踏まえて、研究の視点をきめて具体的に実践研究し、それぞれの成果を持ちより研修会において研究討議を行い方策を明らかにしようとしているところである。

なお、関プロ大会では、地区の提案として北犬飼中の小野昭校長が「自ら考え主体的に活動する生徒の育成」の提案をされ、活発な研究討議が行なわれてその成果を見ることができた。

以上の研修活動の他に、次の学校が今年度、長期にわたる研究の成果を公開し、研究実践の交流を図った。

- 栗野中(県教委指定11/19発表) 学校経営
生徒一人一人が自己の存在感を味わい、生き生きと活動できる学校経営
- 日光東中(文部省指定11/16発表) 教育課程
生徒一人一人の選択能力を高め、生き生きと活動できる教育課程の編成とその実践
- 東原中(文部省指定11/24発表) 機器利用
学習指導におけるコンピュータ活用の在り方
- 藤原中(文部省指定11/9発表) 武道指導
意欲をもって互いに鍛え合う剣道指導
また下記の学校が継続研究中で来年度発表の予定である。
- 足尾中(県教委指定) 福祉教育
- 鹿沼北中(文部省指定) 道徳教育推進

研修活動の概要

栃木地区

平成4年度は、6月に関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会が開催され、栃木市中学校長会は第7分科会「創意と活力のある学校」を担当し、その運営とこれまでの研究・実践の成果を発表し好評を得ている。分科会における研究協議題は「学校行事の改善による教育活動の活性化」で提案はシンボル「竹」を設定しての栃木東中学校の実践例を中心としながら、栃木市内の中学校の実践について述べ、教育活動の活性化の提案として多くの共感を得た。

次は、小中学校長が共通テーマで年間計画のもとに研究する活動で、今年度は「生涯学習への移行に即した学校教育はどのようにしたらよいか」に取り組んできた。中学校長部会は「学校週5日制と学校開放」並びに「奉仕等体験学習」の二つを小テーマとして、今日の学校教育の課題に適時に対応した内容を取り上げた。この研究の成果は11月19日に行われた栃木市校長会研究発表会で発表したところである。

第三は、課題選択研修とでもいうべきもので、①心豊かで視野の広い教職員の育成について、②学校週5日制について（特に教育課程編成の工夫）③外国人子女の教育の三つの中から一つを選んで自校の研究実践例を発表し合う研修活動である。

第四は、講話や実演等を見聞して視野を広める修養活動を実施してきた。5月に、市教委の中田学校教育課長の「生涯学習と学校教育」、8月には、国学院短期大学小林教授の「下野と万葉集」12月は、京家扇之助師匠による「古典芸能（落語）に親しむ会」などである。

第五は、県外先進校の視察を行ったことである。6月に、群馬県太田市立太田小学校と足利市教育委員会を訪問し、学校週5日制について研修を深めた。11月には、愛知県西春町立天神中学校を参観して、「奉仕等体験学習」についての調査研究を行ってきた。

個性を生かす教育の推進

— 選択教科の履習を中心に —

小山地区

今年度の小山市校長会中学校部会（11校）は、齋藤英会長（桑中学校長）を中心に、各校相互の実践成果を交換しあい、校長としての使命に徹して主体的・創造的な学校運営に資し、さらに地域社会と時代の要請を考慮して、活力ある運営に努めることを基本方針とした市校長会の全体研修（小中38校）の研究主題『豊かな心を持ち、たくましく生きる児童生徒の育成を目指す学校経営』を受け、中学校部会では、『個性を生かす教育を進める学校経営 — 選択教科の履習を中心に』を研究テーマとして、活動をすすめてきた。

研究は、昨年のテーマである「新教育課程への準備と学校経営」を基盤にして、次の諸課題について研修を重ねる。

- (1) 個性を生かす教育の視点から、学習内容や学習方法の構造的な把握
- (2) 個に応ずる、個を伸ばす教育の実践的研究
- (3) 個性の多様化に応ずる学習指導の研究
- (4) 行動、実践を通して、育てる教育の推進
- (5) 多様性・創造性を育てる学校経営上の諸問題
- (6) 新教育課程編成の諸問題 — 平成5年度完全実施に向けて。

上記の問題解明のため、次の研修を行う。

- (1) 全体研修……講話「学校における美術教育」（講師 県立栃木女子高校長 古島哲夫先生）
- (2) 美術発表……テーマに基づく学校経営 3名
- (3) 先進校視察 北海道旭川市立神居中学校 平成3・4年度文部省教育課程一般指定校
- (4) 市教委 先輩校長との合同による学校経営調査研修 長野県上田市立上田第一中学校視察
- (5) 研究成果の発表……市小中学校長定例会議研修日に、小学校2名、中学校1名による発表。
- (6) 不登校対策検討委員会を結成し、研究協議。

※第34回関東甲信越地区研究協議会提案 参加。

研修・協議活動等の概要

下都賀地区

本年度は、「心豊かでたくましい日本人を育成する中学校教育」のあり方を大きなテーマに、毎月会員12名の各学校を順次に会場として、関東甲信越栃木大会での分科会提案のまとめと、学校経営に関する課題を中心に協議等を行った。

1 関東甲信越栃木大会分科会提案について

「学ぶ喜びを感じ、いきいきと活動できる生徒の育成」を主題とした研究

まず研究の主題に迫るために、学習指導要領の理念をふまえ、「いきいき栃木っ子3あい運動」の推進及び各学校の実態等に応じた特色ある教育課程の編成についての構想を明らかにした。

次に各校の実践研究のうち「基礎的・基本的な内容を重視し個性を生かした教育」「人権教育の充実を通じた仲間づくり」「地域伝統芸能の継承を取り込んだ地域との連携」などに取り組んだ事例を取りあげ、さらに研究・協議のうままとめた。

2 学校経営等に関する協議について

(1) 学校教育に関する時事的あるいは各校の学校運営にかかわる課題について共通理解を図ることなどの研修や協議

本年度は主に「学校週5日制」の実施や学習指導要領完全実施に向けての教育課程編成、評価（観点別評価、通知票…）などが内容となった。

(2) 県外教育事情等の調査・研究

「生徒一人一人の自ら学ぶ力を育てる学習指導の研究」を研究主題として、生徒が主体的に学習活動をするための学習のめあてを持たせる指導法の工夫に取り組んだ青森県三沢市立第一中学校を訪問し、その研究内容及び職員組織や経過などについて調査した。

また生徒の実態に応じる教育課程の編成と実践について、あるいは基礎的・基本的内容の定着を図る学習指導のあり方について、さらに観点別評価や学校週5日制の実施などに関する調査や意見の交換を行った。

本年度の研修活動の概要

那須地区

本年度最初の那須地区中学校長研修会は、平成4年4月6日（月）に9名の新会員を迎えて開催された。会に先立ってまず組織づくりが行われ、次いで研修目標、研修内容等が熱心な討議を経て決定の運びとなった。

本年度の課題は、何といたっても6月10日（水）から三日間にわたる第44回関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会をいかに成功に導くか、そのために我々会員は何をなすべきかであった。本地区は、第3分科会の「豊かな心を育てる道徳教育」の提案地区でもあり、また司会、記録、運営等も担当するため、大会事務局との連絡を密にして準備を進めてきた。幸いにして、当日は参加者からの意見発表が極めて活発で、内容の充実した分科会になったことは喜ばしいかぎりであった。大会の準備及び運営にあられた関係者各位の長い間の御苦勞に、改めて深く感謝の意を表したい。

次に本地区独自の研修活動についてふれたい。

研修会は8月8日（土）に開催され、各自持参した資料をもとに、「学校週5日制の諸問題」をテーマにして意見の交換を行った。

各中学校の対応をまとめると、

- 1 生徒及び保護者への周知方法に工夫がこらされ、学校週5日制の意義の徹底がはかられている。
- 2 各中学校とも、第2土曜日には部活動を行わないことを申し合わせている。
- 3 学校開放には積極的な学校が多い。
- 4 授業時数を確保するために、週時間割の作成には苦慮している。

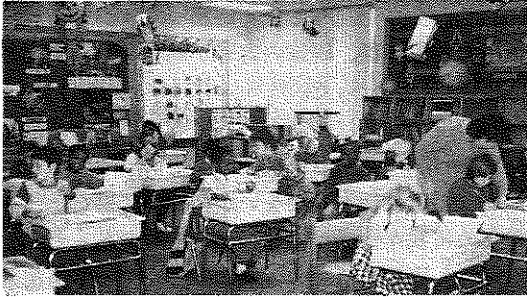
などである。各中学校の具体的な取り組みを知るうえでも、有意義な研修会であった。

このように本年度も大きな成果を収めることができたが、是非とも解決しなければならない課題もあり、校長としての責務を改めて痛感しているところである。

海外研修視察記

ヨーロッパ・アメリカ合衆国
を旅して

小山市立小山第二中学校長
荒井貞夫



〈二人の教師で個別指導が徹底しているアメリカの小学校の授業〉

文部省教員海外派遣長期第20団(全国21名)の団長として、平成4年10月8日から11月8日までの32日間、ノルウェー、ドイツ、フランス、アメリカ合衆国、メキシコの5か国を訪問し、教育事情や文化施設等を視察研修する機会を得ました。

視察地は、教育関係では、ノルウェーのハーマル市、ドイツのエアランゲン市、合衆国のカリフォルニア州ノリスタウン市の三つの市教委と小・中・高校計15校であり、その間をぬって、オスロ、フランクフルト、パリ、ニューヨーク、ワシントンD・C、ロサンゼルス、メキシコ等各地の文化施設を視察しました。

以上の中から、それぞれの国について、特に印象に残ったことについて記してみます。

〈ノルウェーの教育〉

社会に受け入れられる国民の育成 「学校は特定のエリートを育てる場ではない。将来ノルウェーの社会に順応できる平均的なノルウェー人の育成を目指し、そのチャンスを与えるのが教育である」という考え方が徹底しているのに感銘した。**教育の根底を流れる「連帯感」と「奉仕」の精神**
一人一人の子どもを、学校と家庭と地域社会が一体となって育てている。課外活動一つを例にとってみても、放課後、地域社会のリーダーが無

報酬で子どもたちを指導している。学校は施設を地域に開放し、学校が、地域住民と心をつなぐ広場になるように努めていると感じられた。

生活は質素に、思考は高尚に 食生活などは意外と質素なのに、国民の多くが別荘を持ち、週末には郊外で個人としての生活を大切にしている。

〈ドイツの教育〉

小学校4年修了段階で将来の道路決定 全ての子どもに共通な教育は 基礎学校4年間だけである。10歳時の能力・適性によって、将来社会の底辺を支える労働者を育成する基幹学校(5年制)に進むか、中級技術者や公務員や中間管理者への道が開ける実科学校(6年制)に進むか、大学進学につながるエリート教育のギムナジウム(9年制)に進むのかが決まってしまうというドイツの教育制度そのものが、私にとっては大きな驚きだった。一人一人の能力や個性に合った職業人教育の徹底

こんなに早い時期の進路決定なのに、受験のための塾や受験競争がないという。それは、自分の能力に合った学校に進めば、将来の職業を目指して自己を最大限に伸ばす教育システムが準備されているゆきないドイツ教育の自信であろうか。

〈アメリカ合衆国の教育〉

地方分権の教育 教育に関する権限は各州にある。しかも、その大部分の権限は地方学区にある。ノリスタウン学区では5・3・4の義務教育。**強力な合衆国を目指した教育目標と教育改革**

今、合衆国は教育改革の真っ只中である。それが目指しているのは、高校の卒業率を高め、世界経済に打ち勝てる学力を高め、麻薬や暴力を追放し規律正しい学習環境を作る方向である。

少人数学級でゆとりの教育 どの教室も30人以下の少人数学級で、選択教科の授業では、10人から20人程度であり、指導が徹底している。

思考力・創造力重視の教育 「知識の注入でなく、思考力の開拓を」「教える教育から学ぶ・考える教育へ」リーディングを中心に教育課程の見直し作業が進められ、「コミュニケーション」や「イーグルアカデミー」などの合科的・総合的な学習によって、ものの見方や考え方を深めさせていこうとする新しい試みが模索されている。